

平成30年度病害虫発生予報第6号

平成30年 8月 31日
愛 知 県

普通作物

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
イネ	いもち病 (穂いもち)	やや少ない	県全域	8月下旬の早期栽培での発生量はやや少ない 主要品種は穂いもちに強い 9月の降水量は平年並が多い	－ － ±～＋
	紋枯病	平年並	県全域	8月下旬の発生量はやや少ない 9月の降水量は平年並が多い	－ ±～＋
	トビイロウンカ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並	±
	ツマグロヨコバイ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並	±
	コブノメイガ	やや少ない	県全域	8月下旬の発生量はやや少ない	－
	フタオビコヤガ	少ない	県全域	8月下旬の発生量は少ない	－
	斑点米カメムシ	やや少ない	県全域	8月下旬の発生量はやや少ない	－
ダイズ	ハスモンヨトウ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 9月の気温はほぼ平年並	± ± ±
	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 9月の気温はほぼ平年並	＋ ±

・ 防除対策

[ダイズ・オオタバコガ]

8月3日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参照してください。

・ 留意事項

トビイロウンカは、県内6か所に設置した予察灯には誘殺されていません。ただし、水田内での発生を7月下旬に確認しています。トビイロウンカは、同一ほ場内でも場所により生息数に大きなばらつきがあるので、ほ場全体を注意して見回り、発生を確認したら収穫前日数に注意して薬剤防除をしましょう。

7月下旬のイネにおけるヒメトビウンカの払落調査での捕獲数は、平年よりもやや多い状況です。ヒメトビウンカは縞葉枯病の発病株から病原ウイルスを保毒し、次作の伝染源となりますので、収穫後は速やかに水田を耕起し、ひこばえを放置しないようにしましょう。

果樹

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	黒点病	平年並	県全域	8月の枯れ枝上の孢子形成量は やや少ない 9月の降水量は平年並が多い	－ ±～＋
	ミカンハダニ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の気温はほぼ平年並	± ±
	チャノキイロアザミウマ	やや多い	県全域	8月下旬のイヌマキにおける発生量は平年並 8月下旬の被害果率は高い 黄色粘着トラップにおける誘殺数はやや多い	± ＋ ＋
モモ	せん孔細菌病	やや多い	県全域	8月下旬の発生量はやや多い 9月の降水量は平年並が多い	＋ ±～＋
	モモハモグリガ	やや少ない	県全域	8月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は少ない	± －
ブドウ	べと病	やや多い	県全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の降水量は平年並が多い	± ±～＋
カキ	炭疽病	平年並	県全域	8月下旬の発生量はやや少ない 9月の降水量は平年並が多い	－ ±～＋
	うどんこ病	少ない	県全域	8月下旬の発生量は少ない	－
果樹共通	カメムシ類	多い	県全域	予察灯における誘殺数はやや多い ヒノキ球果量はやや多い 9月以降果樹園に飛来する個体が多くなると予測	＋ ＋ ＋

・ 防除対策

[ウンシュウミカン・チャノキイロアザミウマ]

スタークル/アルバリン顆粒水溶剤やディアナWDGなどで防除しましょう。

[モモ・せん孔細菌病]

8月17日発表の「モモせん孔細菌病情報第1号」を参照してください。

[ブドウ・べと病]

ICボルドー48QやICボルドー66Dなどで防除しましょう。り病落葉が次作の伝染源になるので、ほ場外に持ち出し、適切に処分しましょう。

[果樹共通・カメムシ類]

7月中下旬に実施したヒノキ球果におけるカメムシ類の口針鞘（吸汁した跡）数から、8月中にはヒノキ林から離脱すると考えられます。発生量の多いほ場ではアクタラ顆粒水溶剤（ナシ・カキ共通）やテルスターフロアブル（ナシ・カキ共通）などで防除しましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
キャベツ	黒腐病	やや多い	県全域	前年11月下旬の発生量は平年並 9月の降水量は平年並が多い 台風21号による強風を伴う降雨 が予想される	± ±～ +
キャベツ ハクサイ ダイコン	コナガ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並	± ±
	ハイマダラノ メイガ	平年並	県全域	8月の発生量は平年並 9月の気温はほぼ平年並	± ±
野菜共通	ハスモンヨトウ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並 9月の気温はほぼ平年並	± ±
	シロイチモジ ヨトウ	多い	県全域	8月下旬の発生量は多い フェロモントラップにおける誘 殺数は多い	+ +
	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘 殺数はやや多い 9月の気温はほぼ平年並	+ ±

・防除対策

〔キャベツ・黒腐病〕

カスミンボルドーやコサイドボルドーなどで防除しましょう。銅水和剤を用いる場合、炭酸カルシウム水和剤（クレフノンなど）を加用し、薬害を防止しましょう。

〔野菜共通・シロイチモジヨトウ〕

キャベツは、本日発表の「平成30年度病害虫発生予察注意報第4号」を参照してください。野菜類では、デルフィン顆粒水和剤で防除しましょう。

〔野菜共通・オオタバコガ〕

8月3日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参照してください。

・留意事項

ハスモンヨトウは、フェロモントラップにおける誘殺数はおおむね平年並ですが、豊橋市では8月中旬に急増しました。ほ場周辺のサトイモやダイズほ場の被害状況を参考に、発生に注意して適宜防除しましょう。詳細は本日発表の「ハスモンヨトウ情報第2号」を参照してください。トマトやミニトマトでは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルスを媒介するタバココナジラミやトマト黄化病の病原ウイルスを媒介するコナジラミ類の防除を徹底しましょう。感染株は発見次第抜き取り、適切に処分しましょう。

イチゴでは、育苗ほでハダニ類の発生量が多いほ場があります。本ほにハダニ類を持ち込まないように、アフーム乳剤やモベントフロアブルなどで必ず定植直前に防除を徹底しましょう。炭酸ガス処理（二酸化炭素くん蒸剤）をした場合、処理後の苗をハダニ類の発生した育苗ほに戻すと再度ハダニ類が寄生してしまうので、速やかに定植しましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キク (露地)	アブラムシ類	少ない	県全域	8月下旬の発生量は少ない	—
	ハダニ類	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の気温はほぼ平年並	± ±
	ハスモンヨトウ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘 殺数はおおむね平年並 9月の気温はほぼ平年並	± ±
	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘 殺数はやや多い 9月の気温はほぼ平年並	+ ±

・防除対策

[キク・オオタバコガ]

8月3日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参照してください。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」(アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>)を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報(名古屋地方気象台8月30日発表)

〈予想される向こう1か月の天候〉

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、平年並の確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

[気温] 低い : 30% 平年並 : 40% 高い : 30%

[降水量] 少ない : 20% 平年並 : 40% 多い : 40%

[日照時間] 少ない : 40% 平年並 : 40% 多い : 20%